

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目 カメルーン首都ヤウンデをめぐる

都市－農村間の農作物流通と女性商人の商業活動

氏 名 塩 谷 暁 代

論 文 内 容 の 要 旨

○研究目的

本論文は、農作物販売に専門化した女性商人の商業活動を研究対象とした人類学的研究である。調査地は、中西部アフリカに位置するカメルーン共和国の首都ヤウンデとその隣県、レキエ県農村である。

サハラ以南のアフリカ諸都市では、近年、人口が急速に増加している。ヤウンデも、拡大するアフリカ都市のひとつである。その人口は年々増加し、200万人を超える(2010年統計:INS)。人口増加の一途をたどるアフリカ都市において、都市住民の食料を確保することと雇用の創出は、生活の根本的な問題である。

本論文の第一の目的は、農作物販売をおこなう女性商人の商業活動とその背景を明らかにすることである。第二の目的は、都市－農村間で展開する農作物流通の全体像を明らかにし、そのなかにおける女性商人の商業活動を位置づけることである。

○全体の構成と内容

第1章と第2章では、カメルーン共和国と首都ヤウンデについて説明した。カメルーンは、気候・地理・部族構成においてきわめて多様な国である。この多様性は、生産物や生業形態の多様性や豊かさとなって、国内における食料生産と供給をささえている。その首都ヤウンデは、19世紀後半にはじまったドイツ植民地統治からフランス植民地統治の中心地として形成されてきた植民地起源の都市である。

第3章では、首都ヤウンデの形成と市(いち)の成立過程の関係を明らかにし、そのなかで展開した女性の商業活動についてのべた。つぎに首都ヤウンデの物流において市場(いちば)の重要性を指摘し、その機能、構造、食料品部門の市場商人の特性を明らかにした。食料品部門の市場商人の特徴は、次の2点に集約される。①80%が女性商人である。②商人の出身地域は食料品の生産地と重複する。②の特徴から、生産された食料品は地域的なつながりによって都市まで供給されていることが予想され

た。また市場の農作物販売にエトン女性商人が深く参入していることが明らかになった。エトンは、レキエ県に居住する部族である。レキエ県はまたヤウンデ向け農作物の主要供給地となっている。

第4章では、エトン女性商人を事例として農作物販売に専門化した市場商人バイヤムセラムの商業活動とその特徴を説明した。またその商業活動の維持要因について検討した。これにより次の点が明らかになった。

ヤウンデーレキエ県間の農作物流通過程は、①エトン農村女性(生産者、一時商人)、②小規模運搬業であるエトン男性、③エトン女性商人によって維持されている。エトン女性商人の商業活動は、「農村一部族」的つながりによって維持されていることが明らかになった。ヤウンデーレキエ県間において商業活動を展開するエトン女性商人は、その地域経済を仲介する役割を果たしてきたといえる。一方、その商業活動を維持するうえでは、同業者のボランティア・アソシエーションや部族的範疇によらない信用取引をつうじて、「都市一部族的」な社会関係を形成している実態が明らかになった。同業者のあいだで形成される協力関係は、商業活動の維持のみならず、不測の事態にそなえた「保険」や生活共同といった都市生活の保障にまでおよぶこと示した。

第5章では、ヤウンデ向け農作物の供給地であり、またエトン女性商人の出身地もあるレキエ県とエトン農村女性の生活、商業活動について述べた。これにより、都市エトン女性とその商業活動の背景について、農村生活の視点から明らかにした。

第6章では、バイヤムセラムであるエトン女性商人を「農村から都市に移住した女性」と位置づけ、その移住の背景、都市商業に参入した経緯、エトン女性商人の都市生活について記述し、都市生活者としてのエトン女性について考察した。

第7章では女性の商業活動をめぐる近年の変化について明らかにし、その変化が女性商人に新たな商業展開をもたらしていることを示した。

○ヤウンデーレキエ県をめぐる農作物流通とエトン女性商人の商業活動

首都ヤウンデの形成は、レキエ県農村をふくむ周辺農村の女性に2つの変化をもたらせた。第一に農村女性による一時的商業活動(農作物販売)の活発化である。これは現在ますます日常化しつつある。第二にヤウンデへの移住である。農村から都市に移住した女性は、ヤウンデの市場で農作物販売をおこなう都市の専門商人バイヤムセラムという新しい社会階層を形成した。バイヤムセラムであるエトン女性商人は、上記に述べたように「農村一部族」的ネットワークと「都市一部族的」的ネットワークを融合させることによって、都市一部族間の農作物流通における仲介的役割を果たしながら、その商業活動を維持・展開してきた。植民地化以降の首都ヤウンデと周辺農村をめぐる農作物の流通過程の変遷のなかで、その主たる担い手は女性であった。都市と農村で展開する女性の商業活動は小規模でありながら、その総体としては都市向け食料供給という点において、都市の成り立ちをささえる役割を果たしてきたことが明らかになった。